

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士 学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 生物学		講師名 伊藤 康夫		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	教育方法	
1 年次・前期		3 0 時間／ 2 単位／ 1 5 回	講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	・生物学の概念や基礎知識を学ぶことによって、共通性と多様性の両面をもつ、生物についての理解を深めるとともに、ヒトの生物学的特徴についての理解を深める。 ・物質レベルから集団レベルまでの生物学の基本的な概念や基礎的事項を習得するとともに基礎医学である生理学のベースを構築する。			
目標	1. 生物学的知見を身近なものとして捉えることができること。 2. ヒトの形態について、基礎的・基本的事項を説明できること。 3. ヒトの生理について、基礎的・基本的事項を説明できること。			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	1. 生物の特徴・生体の構成成分 2. 生命の誕生と変遷及び進化 3. 細胞の構造と機能 4. 細胞分裂のしくみ 5. 生殖方法・遺伝の法則 6. 遺伝子と染色体・遺伝子の本体：DNA 7. 外部刺激の受容のしくみ 8. ヒトの感覚器の種類と働き 9. 中枢神経系 10. 末梢神経系 11. 効果器 12. ホメオスタシス 13. 内分泌系と自律神経系 14. 生体防御のしくみ 15. 動物の行動と進化並びに環境と生物の関わり		講義 以下の方法によって、生物学の基礎的・基本的事項の理解と定着を図る。 ・講義資料プリントを用いた解説を行う。 ・ホワイトボードへ図示しながらの解説を行う。 ・適宜課題を課す。 ・適宜図表を配布する。 ・質問に積極的に対応する。	
成績評価の方法 試験の成績と講義への出席状況並びに課題の提出とその取り組み状況を総合して評価を行う		テキスト・教材・参考書 歯科衛生学シリーズ『生物学』（医歯薬出版） 講義プリント（自作）等		
担当教員の実務経験の有無		(有) ・ 無		
実務経験の内容 本科目において、高校教諭、専修学校・専門学校講師の実務経験を有す。				

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士 学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名		講師名		
化学		菅原 教紀		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		教育方法	
1 年次・前期	3 0 時間／ 2 単位／ 1 5 回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	化学の基礎を学び、歯科材料や生命を支える化学物質の構造、性質を理解する。 歯科衛生士は医療の現場で、医薬品、歯科材料などの物質を扱う立場にあり、化学の基礎知識が必要不可欠である。本講義では、物質の基本的な理論、法則などを学ぶことにより、歯科医学における化学的理解力、応用力を習得する。			
目標	1. 高等学校における化学基礎・化学の学習を確認・補足する。 2. 化学の主要事項の問題を授業の中で解答しながら、基礎力を養成する。 3. 学習事項と身近な物質の性質を結びつけて理解し、実務へ応用出来る。			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	1 物質の性質と分離 2 物質の構造①（原子の構造と分子） 3 物質の構造②（イオン・金属） 4 物質の構造③（化学結合） 5 気体（気体の法則） 6 溶液①（％濃度） 7 溶液②（体積モル濃度、 P P M） 8 化学反応式（化学反応における量的関係） 9 酸とアルカリ（性質と量的関係） 10 酸化と還元 11 有機化合物①（脂肪族化合物） 12 有機化合物②（芳香族化合物） 13 生態関連物質①（糖類） 14 生態関連物質②（アミノ酸・タンパク質） 15 生態関連物質③（その他）		講義 各項目毎に、「教科書」の記述を基本とし、「基礎事項確認プリント」や「各回のまとめプリント」により、授業の内容を確認・理解し、「資料プリント」を用いて指導内容を補完しながら理解度を向上させる。	
成績評価の方法 筆記試験 出席 授業態度		テキスト・教材・参考書 歯科衛生学シリーズ「化学」（医歯薬出版）		
担当教員の実務経験の有無		有 ・ 無		
実務経験の内容 本科目において高校教諭の実務経験有				

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士 学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 心理学		講師名 山崎 剛信		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	教育方法	
1 年次・後期		3 0 時間／ 2 単位／ 1 5 回	講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	心理学の基礎的知識を修得し、実際の歯科医療現場や実生活で心理学の知識を役立てることができるよう基礎的な事項を学ぶ。人間理解の基礎となる心理学的な見方について学ぶ。			
目標	1. 命の尊さや思いやりを基調に、人々と協和し、良い人間関係を築くことができる。 2. 対象との関わりを通して、心の動きや価値・信念に気づくことができる。 3. 人間を、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルに統合された存在として理解することができる。			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	1. 心理学とは何か、心理学の概要 2. 心理学における心とは：心の捉え方とモデル 3. 精神分析学と交流分析 4. エゴグラムと交流バタン分析 5. フラストレーション、コンフリクト、防衛機制 6. 学習性無力感とストレス対処 7. 自己実現の欲求とポジティブ心理学 8. パーソナリティと性格：遺伝と環境 9. 性格類型論と性格特性論 10. 性格検査の種類と方法 11. 感覚と知覚の心理：リアリティの構成 12. 注意機能のヒューマンエラー 13. 記憶の基本特性とその多元性 14. 記憶の変容性と虚構性 15. まとめ：心理学の歩みと研究法		講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	
成績評価の方法 筆記試験 出席		テキスト・教材・参考書		
担当教員の実務経験の有無		有 ・ 無		
実務経験の内容				

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士 学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 英語		講師名 川村 繭子		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	教育方法	
1 年次・後期		1 5 時間／ 1 単位／ 7. 5 回	講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	英語を主体とするコミュニケーション能力を身につける。歯科に必要な英語を身につける。自分のことを英語で表現できるようになる。英語でコミュニケーションをとりながら、クラスメートを知り、より発話しやすい環境をつくる。主に歯科医院で必要な簡単な英単語・英語表現を知る。			
目標	1、歯科医院でコミュニケーションをするための簡単な英語を習得できる。 2、英語で発話しようと努力し、積極的にロールプレイに参加できる。 3、英語で簡単なコミュニケーションをとることができる。			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	1、英語で自己紹介をする		講義、グループワーク	
	2、簡単な英会話表現、電話予約を受ける場面		講義、	
	3、電話予約を受ける場面		講義	
	4、薬だけ要求されたときの対応		講義	
	5、簡単な英会話表現、緊急の患者への対応		講義	
	6、緊急の患者への対応		講義	
	7、患者に症状を聞く場面		講義	
	8、まとめ		講義	
成績評価の方法 筆記試験、出席、授業態度 実技試験（プレゼンテーション）		テキスト・教材・参考書 歯科衛生学シリーズ「歯科英語」（医歯薬出版）		
担当教員の実務経験の有無		有 ・ 無		
実務経験の内容 他専門学校での英語指導経験・大学での英語指導等実務経験有				

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士		学科	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 歯科英語			講師名 川村 繭子		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		教育方法	
2 年次・後期		1 5 時間／ 1 単位／ 7. 5 回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	英語を主体とするコミュニケーション能力、歯科に必要な英語力を身につける。 歯科医院で必要な簡単な英単語・英語表現を知り、発話力を高める。 職場でも積極的に英語を使うことができる自信を身につける。				
目標	1.歯科医院でコミュニケーションをとるための簡単な英語を習得できる。 2.積極的に授業に参加し、自らの英語で表現できる。 3.歯科医院特有の場面で、英語で簡単なコミュニケーションをとることができる。				
授業内容	教育内容			教育方法・留意点	
	1. 1 年次の復習 簡単な英会話表現" 2. 患者に治療の同意を得る対応 3. 簡単な英会話表現 子どもの患者に歯の磨き方を教える対応 4. 子どもの患者に歯の磨き方を教える対応 5. おとなの患者に歯の磨き方を教える対応 6. 簡単な英会話表現 治療後の対応 7. 治療後の対応 まとめ 8. まとめ			講義・グループワーク 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	
成績評価の方法 筆記試験、出席、授業態度 実技（プレゼンテーション）			テキスト・教材・参考書 歯科衛生学シリーズ「歯科英語」（医歯薬出版）		
担当教員の実務経験の有無			有 ・ 無		
実務経験の内容 多専門学校での英語指導経験・大学校での英語指導等実務経験あり					

シラバス

【令和 7 年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士 学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 情報処理		講師名 三田地 さおり		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	教育方法	
1 年次・後期		1 5 時間／ 1 単位／ 7. 5 回	講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	パーソナル・コンピューターの基本的操作を習得し、Word・Excel・PowerPoint の一般的な操作ができる。パソコンを使用し、文書作成やデータ処理、プレゼンテーション作成の基礎を学ぶ。			
目標	1. Word の基本的操作を習得し、ビジネス文書やちらしの作成をすることができる。 2. Excel の基本的操作を習得し、関数やグラフを作成しデータの分析することができる。 3. PowerPoint の基本的操作を習得し、スライドを作成しプレゼンテーションすることができる。			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	1. パソコンの基本知識 Word① 2. Word② 3. Word③、Excel① 4. Excel② 5. Excel③、PowerPoint① 6. PowerPoint② 7. PowerPoint③ 8. データ共有		講義、演習 講義、演習 講義、演習 講義、演習 講義、演習 講義、演習 講義、演習 講義、演習	
成績評価の方法 出席、授業態度 実技試験		テキスト・教材・参考書 「よくわかる Word2021&Excel2021&Powerpoint2021」(FOM 出版)		
担当教員の実務経験の有無		(有) ・ 無		
実務経験の内容				

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士		学科	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 コミュニケーション論			講師名 赤澤 徳俊 比屋根 由美子（手話）		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		教育方法	
2 年次・通年		1 5 時間／1 単位／7. 5 回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 （目的）	コミュニケーションの概念・スキルを学び、臨床におけるコミュニケーションの役割を理解する。				
目標	1. 社会人として通用するコミュニケーションスキルを身につける。 2. 相手の視点に立ち、柔軟に対応できるコミュニケーションスキルを身につける。 3. 内省・チームコミュニケーションを学び、学校生活に活かす				
授業内容	教育内容			教育方法・留意点	
	1. コミュニケーション基礎 （自己紹介、他己紹介）			講義、演習	
	2. コミュニケーション基礎 （チームビルディング）			講義、演習	
	3. コーチング(傾聴・承認・質問)、 セルフコーチング（学習意欲）			講義、演習 講義、演習	
	4. 交流分析(エゴグラム)				
	5. 歯医意識調査から見るコミュニケーション ポジティブ心理学			講義、演習	
	6. 手話 聴覚障害とは			講義、演習	
	7. 手話 あいさつ 自己紹介			講義、演習	
	8. 手話 歯科診療			講義、演習	
成績評価の方法 授業態度、レポート			テキスト・教材・参考書 講師作成資料		
担当教員の実務経験の有無 有 ・ 無					
実務経験の内容 専門学校での指導経験等実務経験有					

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士		学科	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 解剖学・組織発生学			講師名 野坂 洋一郎		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		教育方法	
1 年次・前期		3 0 時間／ 2 単位／ 1 5 回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	人体の構造と機能、また組織・発生について概要を理解する。 人体の基本構造について体系的に学び、人体における構造と働きとを正確に理解していく。人体の発生時に出現する組織構造を理解し、発生機序についての知識を習得する。				
目標	1. 人体の基本的な構造を理解し、ヒトの体の形態を医療介護の現場に生かせる。 2. 血液・リンパの成分を理解し、循環の仕組みと機能を理解する。 3. 体を支配している神経の仕組みと分布を理解する。				
授業内容	教育内容			教育方法・留意点	
	1. ヒトの体の各部位・方向を説明できる 2. 細胞の基本構造を理解し、組織の分類と特徴を説明できる 3. 染色体・減数分裂について理解し、三胚葉から発生する組織を列举できる 4. 骨の構造と発生を理解する.ヒトの骨格系について体幹と四肢骨を形態と関節を中心に説明できる 5. 筋肉の起始・停止が説明でき、背側筋群と腹側筋群に区分して、歯胚神経を説明できる 6. 血液を構成する成分を理解し、心臓の基本的構造をもとに循環系について説明できる 7. 消化管の基本構造を理解し、各消化器の特徴を説明できる 8. リンパ系の構造と免疫の仕組みを説明できる 9. 神経系を分類し、末梢神経の経路と分布を説明できる 10. 中枢神経の構造と機能について説明できる 11. 感覚受容器の構造について説明できる 12. 呼吸器の構造について説明できる 13. 泌尿器の構造について説明できる 14. 生殖器の構造について説明できる 15. 内分泌器官について理解し、ホルモンの働きを説明できる			講義 1. 解剖用語を正確に用いる 2. 上皮組織、間葉組織の区分 4. 手根骨の石灰化順序 5. 筋肉の働きによる特徴(足弓・肩甲骨) 6. 心臓中の血流 7. 拍動を感知出来る部位 8. リンパ球の分布 9. 大脳の機能局在 10. 自律神経の分布 12. 胸部の構造と呼吸運動を関連づける 13. 腎臓における尿の生成 14. 受精のしくみ 15. 血中カルシウムの調整	
成績評価の方法 筆記試験 出席 レポート			テキスト・教材・参考書 歯科衛生士学シリーズ「人体と構造と機能Ⅰ 解剖学・組織発生学・生理学」(医歯薬出版) 「口腔顎顔面解剖ノート」(学建書院)		
担当教員の実務経験の有無			(有) ・ 無		
実務経験の内容 他専門学校での指導経験等実務経験有					

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士 学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 生理学		講師名 赤羽 和久		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		教育方法	
1 年次・前期	1 5 時間 ／ 1 単位／ 7. 5 回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	人体のそれぞれの組織、器官のはたらきが、いかにして人体全体が調和のとれた生命活動を果たしているのかを理解する。口腔生理学の基礎として必須の知識を学ぶ。			
目標	1. 細胞、組織、器官のはたらきのメカニズムを可能な限り物理化学的に理解する。 2. 人体は特定の役割を果たす種々の器官系から成り立っていること理解する。 3. ホメオスタシスの指標としてのバイタルサインの重要性を理解する。			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	1. 生理学概要 生理学とは何を学ぶ学問か？ ホメオスタシスの概念		講義	
	2. 消化・吸収 食物の消化と吸収のしくみ		講義	
	3. 循環 体循環と肺循環の特徴		講義	
	4. 血液・呼吸 血液の成分と働き、各呼吸器の働き		講義	
	5. 神経系・筋 末梢神経系および中枢神経系の働き、 筋の種類と特徴		講義	
	6. 感覚 感覚の種類と特徴		講義	
	7. 腎臓・尿 腎臓の働き、排泄の仕組み		講義	
	8. 内分泌・生殖 内分泌腺の種類と働き、性周期と体温変化		講義	
	成績評価の方法 筆記試験 出席		テキスト・教材・参考書 歯科衛生士学シリーズ「人体の構造と機能 1 解剖学・組織発生学・生理学」（医歯薬出版）	
担当教員の実務経験の有無 (有) ・ 無				
実務経験の内容 専門学校での指導経験等実務経験有				

シラバス

【令和 7 年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士 学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 栄養学		講師名 中舘 幸代 熊谷 英里		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		教育方法	
1 年次・後期	2 0 時間／ 1 単位／ 1 0 回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	各栄養素の働きや消化・吸収、食事、食品に含まれる栄養素、各ライフステージにおける栄養、栄養ケア・マネジメントを学び、食品と歯科疾患との関連性や食生活指導を通じての歯科衛生士の役割を理解する。			
目標	1.栄養素の種類と働き、消化・吸収のメカニズムを理解できる。 2.各ライフステージにおける栄養の要点を説明できる。 3.栄養ケア・マネジメントでの歯科衛生士の役割が理解できる。			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	1.栄養学と歯科衛生士		講義	
	2.栄養素の種類とはたらき		講義	
	3.栄養素の消化・吸収		講義	
	4.健康と栄養		講義	
	5.食事と食品①		講義	
	6.食事と食品②		講義	
	7.ライフステージと栄養（妊娠期～思春期）		講義	
	8.ライフステージと栄養（成人期～高齢期）		講義	
	9.栄養ケア・マネジメント①		講義	
	10.栄養ケア・マネジメント②		講義	
成績評価の方法 筆記試験、出席、授業態度		テキスト・教材・参考書 歯科衛生学シリーズ「栄養学」（医歯薬出版）		
担当教員の実務経験の有無 有 ・ 無				
実務経験の内容 他専門学校での指導経験等実務経験有				

シラバス

【令和 7 年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士学科		学科	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名			講師名		
生化学			中舘 幸代 熊谷 英里		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		教育方法	
2 年次・前期		2 0 時間／ 1 単位／ 1 0 回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	身体をつくっている各種構造物の分子レベルでの理解から、体内の動的な活動としてのエネルギー代謝や物質代謝、そして遺伝子や細胞内の情報伝達の働きを学ぶ。さらに口腔に特徴的な歯、歯周組織、唾液、プラークを対象とし、その構成成分やそこで生ずる現象、特にう蝕と歯周病を生化学的に学ぶ。				
目標	1.生化学の基礎を学び、生命現象を生化学的に理解できる。 2.口腔に特徴的な歯、歯周組織、唾液、プラーク（歯垢）に着目し、その構成成分や現象を生化学的に理解できる。 3.生化学の知識を栄養指導に活用することが出来る。				
授業内容	教育内容			教育方法・留意点	
	1. 生体の構成要素 2. 生体における化学反応 3. 糖質と脂質の代謝－主要なエネルギー基質－ 4. タンパク質とアミノ酸の代謝－多様な機能をもつ生体分子－ 5. 生体における恒常性お維持 6. 歯と歯周組織の生化学 7. 硬組織の生化学 8. 唾液の生化学 9. プラークの生化学① 10. プラークの生化学②			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	
成績評価の方法 筆記試験、出席、授業態度			テキスト・教材・参考書 歯科衛生学シリーズ「人体の構造と機能2 栄養と代謝」（医歯薬出版）		
担当教員の実務経験の有無			有・無		
実務経験の内容 他専門学校での指導経験等実務経験有					

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士		学科	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 口腔解剖学・口腔組織発生学			講師名 野坂 洋一郎		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		教育方法	
1 年次・前期		3 0 時間／ 2 単位／ 1 5 回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	口腔及び口腔付近の表面構造、骨、頭蓋、顎関節、筋肉、動脈、静脈、リンパ系、神経を理解する。口腔解剖学・口腔組織発生学の概要を学び、歯・口腔およびその周囲組織の構造・機能に関する理解を深める。				
目標	1. 頭頸部の構造を理解し、顔面・口腔の形態を歯科臨床の現場で生かせる。 2. 頭頸部の脈管を神経の走行と分布範囲を説明できる。 3. 顔面・口腔・歯の発生を理解でき、歯の硬組織・歯髄・歯周組織の組織学的構造を説明できる。				
授業内容	教育内容			教育方法・留意点	
	1. 鰓弓と顔面の発生を説明できる 2. 顔面の部位について説明できる 3. 口腔の区分と咽頭との境界を説明できる 4. 頭蓋骨を構成する骨を説明できる 5. 内頭蓋底、外頭蓋底の孔・列・管の位置と通過するものを説明できる 6. 上顎骨の構造を説明し、上顎神経と顎動脈の経路を説明できる 7. 下顎骨の構造を理解し、付着する咀嚼筋・舌骨筋について機能を合わせて説明できる 8. 下顎の歯に分布する神経・血管の経路を説明できる 9. 回収系(静脈・リンパ系)について、特徴が説明できる 10. 顎関節の構造と顎運動について説明できる 11. 顎関節の発育と老化による形態変化を説明できる 12. 嚥下に関する構造と筋肉・関与する神経について説明できる 13. 歯の発生と歯の交換を説明できる 14. 歯を構成する硬組織の構造について説明できる 15. 歯周組織の構造を説明できる			講義 1. 解剖学用語を正確に提示する 2. 口唇の部位 3. 口腔の構造物を理解する 4. 頭蓋模型を用いて、孔・管・裂が明示できる 6. 頭蓋模型を用いる 7. 頭蓋模型を用いる 10. スライドで構造と運動を示す 11. スライドで加齢変化を示す 12. 象牙質・歯髄複合体として理解する	
成績評価の方法 筆記試験 レポート 出席			テキスト・教材・参考書 歯科衛生士学シリーズ「歯・口腔の構造と機能口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」(医歯薬出版) 「口腔顎顔面解剖ノート」(学建書院)		
担当教員の実務経験の有無			(有) ・ 無		
実務経験の内容 他専門学校での指導経験等実務経験有					

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士		学科	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 歯牙解剖学			講師名 伊藤 一三		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		教育方法	
1 年次・前期		1 5 時間／ 1 単位／ 7. 5 回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	歯の形態、構造、機能、異常について理解する。 歯の特徴や機能、歯列、咬合の知識を歯科衛生業務にいかせるようにする。				
目標	1. 歯の定義や表示法と歯種を鑑別し、それについて説明できる。 2. 歯の形態を歯種別に説明し、歯の形態異常や形質について説明できる。 3. 歯の萌出順および歯列と咬合について説明できる。				
授業内容	教育内容			教育方法・留意点	
	1. 歯牙解剖学総論① 歯の定義、歯の種類と記号、歯の数と歯式、 方向用語、歯の形態			講義	
	2. 歯牙解剖学総論② 歯の鑑別、歯と歯周組織の組織構造、歯の機能			講義	
	3. 永久歯の特徴① 永久歯の形成時期と萌出時期、上顎中切歯、 上顎側切歯、下顎中切歯、下顎側切歯の特徴			講義	
	4. 永久歯の特徴② 上顎犬歯、下顎犬歯、上顎第一小臼歯、上顎第 二小臼歯、下顎第一小臼歯、下顎第二小臼歯の特 徴			講義	
	5. 永久歯の特徴③ 上顎第一大臼歯、上顎第二大臼歯、下顎第一大 臼歯、下顎第二大臼歯の特徴			講義	
	6. 乳歯の特徴① 上顎乳中切歯、上顎乳側切歯、下顎乳中切歯、 下顎乳側切歯、上顎乳犬歯、下顎乳犬歯の特徴			講義	
	7. 乳歯の特徴② 上顎第一乳臼歯、上顎第二乳臼歯、下顎第一乳 臼歯、下顎第二乳臼歯の特徴			講義	
	8. 歯列と咬合、歯の形態異常			講義	
成績評価の方法 筆記試験 出席			テキスト・教材・参考書 「基礎から学ぶ歯の解剖」(医歯薬出版)		
担当教員の実務経験の有無			有 ・ 無		
実務経験の内容 大学での講義、臨床経験等実務経験有					

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士 学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 口腔生理学		講師名 三條 敏也		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	教育方法	
1 年次・後期		3 0 時間 ／ 2 単位／ 1 5 回	講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	患者が抱えている咀嚼・嚥下・発生の障害に対応するため、歯・口腔とその周囲組織の生理機能に関する十分な基礎知識を身につける。			
目標	1. 味覚を含む口腔内の感覚について説明できる。 2. 摂食嚥下について説明できる。 3. 唾液腺の種類を説明できる。			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	1. 顎・口腔・顔面の体性感覚①		講義	
	2. 顎・口腔・顔面の体性感覚②		講義	
	3. 顎・口腔・顔面の体性感覚③		講義	
	4. 味覚と嗅覚①		講義	
	5. 味覚と嗅覚②		講義	
	6. 咬合と咀嚼・吸啜①		講義	
	7. 咬合と咀嚼・吸啜②		講義	
	8. 咬合と咀嚼・吸啜③		講義	
	9. 嚥下と嘔吐①		講義	
	10. 嚥下と嘔吐②		講義	
	11. 嚥下と嘔吐③		講義	
	12. 唾液		講義	
	13. 唾液		講義	
	14. 発声		講義	
	15. 発声		講義	
成績評価の方法 筆記試験 出席		テキスト・教材・参考書 歯科衛生士学シリーズ「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 (医歯薬出版)		
担当教員の実務経験の有無		有 ・ 無		
実務経験の内容 専門学校での指導経験等実務経験有				

シラバス

【令和 7 年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士 学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 病理学		講師名 柴崎 晶彦		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		教育方法	
1 年次・通年	3 0 時間／ 2 単位／ 1 5 回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	病気の原因、発症の機序、進展および転帰を明らかにし、病気の予防や治療の基礎について理解する。病気にはどのような種類があるか、細胞・組織・臓器にどのような変化を生じるかを理解し、個体に現れる症状や徴候についての知識を習得する。			
目標	1. 病気の原因、発症の機序、進展および転帰を説明できる。 2. 病気の種類を概説し、細胞・組織・臓器に生じる変化を説明できる。 3. 病気に罹患した個体に現れる臨床症状や徴候を示すことができる。 4. 病気の治療の基礎や予防について概説できる。			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	1. 病因論・遺伝性疾患と奇形 2. 循環障害 3. 代謝障害と退行性病変、増殖と修復 4. 炎症 5. 免疫応答異常 6. 腫瘍 7. 歯の発育異常・歯の損傷と着色・付着物 8. う蝕、象牙質・歯髄複合体の病態 9. 歯周組織の病態 10. 口腔粘膜の病変 11. 口腔領域の嚢胞 12. 口腔領域の腫瘍、口腔癌 13. 顎骨の病変 14. 唾液腺の病変 15. 口腔領域の奇形、口腔組織の加齢変化		講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	
成績評価の方法 筆記試験、出席、レポート		テキスト・教材・参考書 歯科衛生学シリーズ「疾病の成り立ち及び回復過程の促進 1 病理学・口腔病理学」（医歯薬出版）		
担当教員の実務経験の有無		有 ・ 無		
実務経験の内容 大学での指導経験等実務経験有				

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士 学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 微生物学		講師名 田近 志保子		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	教育方法	
1 年次・後期		3 0 時間／2 単位／1 5 回	講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	微生物の生態や微生物が原因でおこる疾病、その対応について理解する。 微生物と感染症についての概要と感染症の成り立ちを学ぶ。また、口腔に常在する微生物と口腔疾患について学ぶとともに、感染予防についての基礎的な知識を習得する。			
目標	1. 微生物と感染症の全般的な知識を得る。 2. 口腔感染症について専門的な知識を得る。 3. 感染防御機構についての知識を得る。			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	1. 疾病と微生物 2. 微生物の病原性① 3. 微生物の病原性② 4. 微生物の病原性③ 5. 微生物の病原性④ 6. 微生物の病原性⑤、宿主防御機構と免疫① 7. 宿主防御機構と免疫② 8. 宿主防御機構と免疫③ 9. 口腔微生物学 10. 口腔感染症① 11. 口腔感染症② 12. 口腔感染症③ 13. 化学療法 14. 院内感染対策と滅菌・消毒 15. 細菌培養・顕微鏡観察		講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	
成績評価の方法 筆記試験、出席、授業態度		テキスト・教材・参考書 歯科衛生学シリーズ「疾病の成り立ち及び回復過程の促進 2 微生物学」（医歯薬出版）		
担当教員の実務経験の有無		有 ・ 無		
実務経験の内容 大学歯学部での指導経験等実務経験有				

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士 学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 薬理学		講師名 高田 智美		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		教育方法	
1 年次・後期	1 5 時間／1 単位 / 7. 5 回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	薬物の性質、薬理作用、作用機序および副作用を理解するために、疾病の回復を促進する薬に関する基本的知識を習得する。			
目標	1. 歯科医療以外に用いる代表薬をあげることができる。 2. 歯科医療以外に用いる薬が歯科治療に与える影響を説明できる。 3. 歯科医療以外に用いる薬と歯科治療に使用する薬の相互作用を説明できる。			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	1. 薬物の作用、薬物動態、薬物の適用方法の特徴、作用に影響を与える要因		講義	
	2. 薬物の副作用、有害作用、医薬品を適用する際の注意、薬物の取り扱い		講義	
	3. 薬物と法律・薬物と医薬品、ビタミンとホルモン、末梢神経系に作用する薬物		講義	
	4. 中枢神経系に作用する薬物、循環器系に作用する薬物		講義	
	5. 腎臓に作用する薬物、呼吸器系に作用する薬物、消化器系に作用する、血液に作用する薬物		講義	
	6. 免疫と薬、悪性腫瘍と薬、代謝性疾患治療薬		講義	
	7. 炎症と薬、痛みと薬、抗感染症薬		講義	
	8. 消毒に使用する薬		講義	
成績評価の方法 筆記試験 出席		テキスト・教材・参考書 歯科衛生学シリーズ「疾病の成り立ち及び回復過程の促進 3 薬理学」(医歯薬出版)		
担当教員の実務経験の有無 (有) ・ 無				
実務経験の内容 他専門学校での指導経験等実務経験有				

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士 学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 歯科薬理学		講師名 高田 智美		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		教育方法	
3年次・前期	15時間／1単位／7.5回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	歯科医療に用いられる薬物の基礎的知識を習得する。			
目標	1. 歯科医療に用いる代表薬をあげることができる。 2. 薬物の作用、副作用を説明できる。 3. 服薬指導を行うことができる。			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	1. 局所麻酔薬① 2. 局所麻酔薬② 3. う蝕予防薬、歯内療法薬① 4. 歯内療法薬② 5. 歯周疾患治療薬① 6. 歯周疾患治療薬② 7. 顎・口腔粘膜疾患と薬 8. 漢方医学と薬物		講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	
成績評価の方法 筆記試験 出席率		テキスト・教材・参考書 歯科衛生学シリーズ「疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学」(医歯薬出版)		
担当教員の実務経験の有無		有・無		
実務経験の内容 専門学校での指導経験等、実務経験有				

シラバス

【令和 7 年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士 学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 口腔衛生学Ⅰ		講師名 村井 雄司 小原 志保		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	教育方法	
1 年次・前期		3 0 時間／ 2 単位／ 1 5 回	講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	歯・口腔の歯科疾患の予防を学び、歯・口腔の健康の保持増進について理解する。 歯と口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み、疾病異常の原因、予防に関する化学的事実と基礎を正しく理解し、必要な知識を身につけ、患者への指導に対する実践能力を習得する。			
目標	1. 口腔の健康の定義を説明できる。 2. う蝕・歯周疾患の疫学的特性を概説できる。 3. 人間生態系におけるフッ化物の作用を理解できる。			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	1. 口腔衛生学の総論、歯・口腔の健康① 2. 歯・口腔の健康② 3. 歯・口腔の健康③ 4. 口腔清掃 5. 歯科疾患の疫学 6. う蝕の予防① 7. う蝕の予防② 8. フッ化物によるう蝕予防① 9. フッ化物によるう蝕予防② 10. フッ化物によるう蝕予防③ 11. フッ化物によるう蝕予防④ 12. 歯周疾患の予防 13. その他の疾患・異常の予防 14. 口腔保健管理① 15. 口腔保健管理②		講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	
成績評価の方法 筆記試験		テキスト・教材・参考書 歯科衛生士学シリーズ 「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の 仕組みⅠ 保健生態学」（医歯薬出版）		
担当教員の実務経験の有無		有 ・ 無		
実務経験の内容 歯科医療機関において歯科医師の実務経験あり 歯科医療機関において歯科衛生士の実務経験あり				

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士		学科	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 口腔衛生学Ⅱ			講師名 村井 雄司 津志田 奈保美		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		教育方法	
2 年次・後期		2 0 時間／ 1 単位／ 1 0 回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	地域における口腔保健活動の基礎知識を学び、地域歯科保健活動の意義を理解する。歯科疾患の観察対象となる事象を数量化するための、各指標の意義を理解する。				
目標	1. 地域歯科保健について理解できる。 2. わが国の母子保健の概要を説明できる。 3. 学校保健の対象者を列挙し、意義を説明できる。				
授業内容	教育内容			教育方法・留意点	
	1. 地域歯科保健の基礎知識			講義	
	2. 歯科疾患の指標①			講義	
	3. 歯科疾患の指標②			講義	
	4. 歯科疾患の指標②			講義	
	5. 母子歯科保健①			講義	
	6. 母子歯科保健②			講義	
	7. 学校歯科保健①			講義	
	8. 学校歯科保健②			講義	
	9. 成人・高齢者・要介護者・障害者の歯科保健			講義	
	1 0. 産業歯科保健 国際歯科保健			講義	
成績評価の方法 筆記試験			テキスト・教材・参考書 歯科衛生学シリーズ 「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 1 保健生態学」（医歯薬出版）		
担当教員の実務経験の有無			有 ・ 無		
実務経験の内容 歯科診療所において歯科医師の実務経験あり 歯科診療所において歯科衛生士の実務経験あり					

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士 学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 口腔衛生学Ⅲ（保健情報統計）		講師名 安藤 歩		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		教育方法	
3 年次・前期	2 0 時間／ 1 単位／ 1 0 回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 （目的）	医療現場で得られる様々なデータを視覚的、数量的にまとめ、有用な情報を抽出する方法を習得する。			
目標	1. 保健医療情報とは何かを説明できる。 2. EBM の手順を説明できる。さらに実践できるところまでを目標とする。			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	1. 保健情報と保健統計 保健情報と疫学① 2. 保健情報と疫学② 3. 疫学調査の進め方 4. データのまとめ方①（尺度、代表値、散布度） 5. データのまとめ方②（度数分布、単純集計 等） 6. データの分析法①（相関、推定） 7. データの分析法②（検定法） 検定結果の解釈①（対応のある t 検定） 8. 検定結果の解釈② （対応のない t 検定、カイ二乗検定） 9. データの表現①（図表の種類と特徴） 10. データの表現②（図表の作成）		講義 演習 自分でデータをまとめ、図表を作成し、適切な検定法を選ぶことができるように教育する。	
成績評価の方法 筆記試験、発表		テキスト・教材・参考書 歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 3 保健情報統計学」 （医歯薬出版）		
担当教員の実務経験の有無		有 ・ 無		
実務経験の内容 歯科診療所において歯科医師の実務経験あり				

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士		学科	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名			講師名		
衛生学・公衆衛生学			菊池 要子		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		教育方法	
1 年次・前期		3 0 時間／ 2 単位／ 1 5 回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	・健康の維持増進、疾病の予防に関して、外部環境と内部環境と個人の行動が大切であることを理解したうえで、地域社会にて、歯・口腔機能の重要性を説明・指導できる。				
目標	1. 健康維持に大切な外部環境と内部環境を理解し、社会集団特有の疾病の原因や感染症経路について説明できる。 2. 保健医療行政や病院管理などの保健・医療システムを理解した上で、地域住民に健康の保持増進が保たれるような指導ができる。				
授業内容	教育内容			教育方法・留意点	
	1 限：オリエンテーションと総論			講義	
	2 限：人口静態と人口動態			講義	
	3 限：環境と健康			講義	
	4 限：疫学			講義	
	5 限：感染症			講義	
	6 限：食品と健康			講義	
	7 限：生活習慣と健康			講義	
	8 限：地域保健			講義	
	9 限：母子保健			講義	
	10 限：学校保健			講義	
	11 限：成人・高齢者保健			講義	
	12 限：産業保健			講義	
	13 限：精神保健			講義	
	14 限：国際保健			講義	
	15 限：健康危機管理・災害保健			講義	
成績評価の方法 筆記試験による評価			テキスト・教材・参考書 デンタルスタッフの衛生学・公衆衛生学 (医歯薬出版)		
担当教員の実務経験の有無			(有) ・ 無		
実務経験の内容			看護師・介護支援専門員、専門学校にて公衆衛生学講師の実務経験有		

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士 学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 衛生行政・社会福祉		講師名 細田 重憲		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	教育方法	
3年次・前期		15時間／1単位／7.5回	講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	歯科衛生士がさまざまな分野で活動するうえで、その根幹となる保健・医療・福祉の制度を理解する。			
目標	1. 社会保障の体系と機能、その中で歯科衛生士の職務と関連する医療保障、生活保障の仕組みについて説明できる。 2. 衛生行政の仕組み（法制度、行政組織、専門職など）を理解し、歯科衛生士の職務と関連づけて説明できる。 3. 図表（統計データ）を読み取り、意味するものは何かを説明できる。			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	1. 社会保障制度 2. 衛生行政 3. 衛生関係法 4. 保健医療の動向 5. 社会保険① 6. 社会保険②、社会福祉① 7. 社会福祉②、保険医療の実務① 8. 保険医療の実務②		講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	
成績評価の方法 筆記試験、出席等による総合評価		テキスト・教材・参考書 歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 保健・医療・福祉の制度」（医歯薬出版）		
担当教員の実務経験の有無		有・無		
実務経験の内容 行政機関での業務等実務経験有				

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士		学科	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 歯科衛生士概論			講師名 浪岡 多津子		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		教育方法	
1 年次・前期		1 5 時間／ 1 単位／ 7. 5 回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	歯科衛生業務を実践して人々の健康づくりを支援するために、保健医療人としての基本的態度を理解し、多様な科目において知識・技術を習得する態度および論理的思考法の基礎を習得する。				
目標	1. 歯科衛生業務の構成要素を説明し、専門職として必要なことを理解できる。 2. 歯科衛生業務の考え方や行動の仕方を理解するとともに論理的な視点を持つことができる。 3. 歯科衛生活動を展開するための判断力と習熟した技術が必要である理由を説明できる。				
授業内容	教育内容			教育方法・留意点	
	1. 歯科衛生学の概要 2. 歯科衛生の歴史 3. 歯科衛生活動のための理論 4. 歯科衛生士法と歯科衛生業務 5. 歯科衛生士と医療倫理 6. 歯科衛生過程 7. 歯科衛生士の活動と組織 8. 海外における歯科衛生士、まとめ			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	
成績評価の方法 筆記試験、授業態度			テキスト・教材・参考書 歯科衛生士学シリーズ「歯科衛生学総論」 (医歯薬出版)		
担当教員の実務経験の有無 (有) ・ 無					
実務経験の内容 歯科医療機関において歯科衛生士の実務経験有					

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士		学科	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 歯科医療倫理			講師名 大友 さつき		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		教育方法	
2 年次・後期		1 5 時間／ 1 単位／ 7. 5 回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	倫理問題に配慮して歯科医療および研究を行うために、生命と医療にかかわる倫理の重要性を理解する。				
目標	1 医療倫理とは何かについて述べることができる。 2 医療従事者の職業倫理に関する規範及びバイオエシックス（生命倫理学）について概説できる。 3 インフォームド・コンセント、インフォームド・チョイス、セカンド・オピニオンについて説明できる。 4 研究と医療倫理の関りについて説明できる。 5 歯科医療倫理を考えるうえで必要な行動を説明できる。 6 患者の個人情報、著作権等について説明できる。				
授業内容	教育内容			教育方法・留意点	
	1 医療倫理について 2 医療倫理に関する規範 3 バイオエシックス（生命倫理学） 4 インフォームド・コンセント 5 研究と医療倫理 6 歯科医療倫理を考えるうえで必要な行動 7 歯科医療従事者に必要とされること 8 医療倫理に関する規範と法律、その他			教科書、講義資料プリントをもとに講義、グループワークを行う。	
成績評価の方法 筆記試験			テキスト・教材・参考書 歯科衛生学シリーズ「歯科医療倫理学」 （医歯薬出版）		
担当教員の実務経験の有無			有 ・ 無		
実務経験の内容 ・ 病院歯科において歯科衛生士の実務経験あり ・ 歯科衛生士養成校において歯科衛生教員経験あり					

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士		学科	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名			講師名		
歯科臨床概論			藤村 淳 山田 優貴		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		教育方法	
1 年次・前期		1 5 時間／ 1 単位／ 7. 5 回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	歯科医療を担う一員となるため、各ライフステージに関わる歯科臨床の概要及び歯科衛生士の関係を理解する。				
目標	1. 歯科臨床の各専門分野の概要を説明できる。 2. 歯科臨床の各専門分野における歯科衛生士の役割を説明できる。 3. 歯科診療所における業務内容を時系列で説明できる。 4. 口腔内外の診査検査を理解する。 5. 歯科保存の知識を理解する。 6. 歯科補綴の知識を理解する。				
授業内容	教育内容			教育方法・留意点	
	1. 歯科診療と歯科診療所 歯科診療の場や、歯科診療に関わるスタッフ、 インフォームドコンセント			講義	
	2. 診査・検査・前処置 バイタルサインの流れ、歯周組織検査項目			講義	
	3. 小児歯科・矯正歯科 小児歯科治療の特徴、 不正咬合の特徴と主な治療方法			講義	
	4. 口腔外科 口腔外科治療の特徴、口腔外科治療の流れ			講義	
	5. 歯科保存 保存修復の対象となる歯の硬組織疾患、 歯内療法の治療法			講義	
	6. 歯周治療 歯周治療の流れ、治療内容、 歯周病と全身疾患の関連			講義	
	7. 歯科補綴 歯科補綴の分類、クラウン・ブリッジ、 有床義歯治療の流れ			講義	
	8. 障害者歯科・高齢者歯科 障害者歯科、 高齢者歯科の特徴と歯科衛生士の役割			講義	
成績評価の方法 筆記試験、出席			テキスト・教材・参考書 「歯科衛生士のための歯科臨床概論第2 版」 (医歯薬出版)		
担当教員の実務経験の有無			有 ・ 無		
実務経験の内容					

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士		学科	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 保存修復・歯内療法			講師名 佐藤 史尚		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		教育方法	
1 年次・後期		2 0 時間／ 1 単位／ 1 0 回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	歯と歯髄に生じる疾患の種類、診断および治療法の基本を理解する。 最新の科学論理に基づいた対応、機器、材料、薬剤の特徴や使用法を把握し、疾患の予防と進行抑制を考慮し、予防、治療、メンテナンスを学ぶ。				
目標	1. 保存修復学について説明できる。 2. 歯内療法学について説明できる。 3. 保存修復・歯内療法において歯科衛生士の役割が説明できる。				
授業内容	教育内容			教育方法・留意点	
	1. 歯の保存療法の概要 2. 保存修復 3. 直接法修復 4. 間接法修復 5. 歯内療法学の概要 6. 歯髄保存療法 7. 歯髄の除去療法、根管治療・根管充填① 8. 根管治療・根管充填② 9. 外科的歯内療法、歯の外傷 10. 歯内療法における安全対策、歯の漂白			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	
成績評価の方法 筆記試験、出席			テキスト・教材・参考書 歯科衛生学シリーズ「保存修復学・歯内療法学」 (医歯薬出版)		
担当教員の実務経験の有無			有 ・ 無		
実務経験の内容 歯科診療所での臨床経験等実務経験有					

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士		学科	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名			講師名		
歯周病学			藤本 淳		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		教育方法	
1 年次・後期		2 0 時間／ 1 単位／ 1 0 回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)		歯周組織に生じる疾患の種類、症状、診断法及び治療法を理解する。			
目標		1. 歯周病の原因的事項と種類、成り立ちについて説明できる。 2. 歯周治療の流れと各段階での治療概要、目的、術式を説明できる。 3. 歯周病と全身疾患の関係について説明できる。			
授業内容		教育内容		教育方法・留意点	
		1. 歯周病の基礎知識① 歯周組織の基本構造		講義	
		2. 歯周病の基礎知識② 歯肉炎と歯周炎		講義	
		3. 歯周病の基礎知識③ 歯周病の原因		講義	
		4. 歯周治療の実際と歯科衛生士の役割① 歯周治療の進め方		講義	
		5. 歯周治療の実際と歯科衛生士の役割② 歯周炎の検査		講義	
		6. 歯周治療の実際と歯科衛生士の役割③ 歯周基本検査		講義	
		7. 歯周治療の実際と歯科衛生士の役割④ 歯周外科治療①		講義	
		8. 歯周治療の実際と歯科衛生士の役割⑤ 歯周外科治療②		講義	
		9. 歯周治療の実際と歯科衛生士の役割⑥ 口腔機能回復治療		講義	
		10. 歯周治療の実際と歯科衛生士の役割⑦ ペリオドンタルメディシン		講義	
成績評価の方法 筆記試験、出席			テキスト・教材・参考書 歯科衛生学シリーズ「歯周病学」(医歯薬出版)		
担当教員の実務経験の有無			(有) ・ 無		
実務経験の内容 歯科診療所での臨床経験等実務経験有					

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士		学科	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名			講師名		
歯科補綴学			山田 優貴		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		教育方法	
2 年次・前期		2 0 時間／1 単位／1 0 回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	歯質欠損に対する歯冠修復と歯列の一部、あるいは全部欠損に対する咬合の修復方法を理解する。				
目標	1. 補綴治療の知識を理解し、実践できるようにする。 2. 歯科衛生士としての役割を理解し、実践できるようにする。 3. 材料を理解し、使用できるようにする。				
授業内容	教育内容			教育方法・留意点	
	1. 咀嚼障害・咬合異常に対する歯科補綴 歯科補綴の概要			講義	
	2. 補綴歯科治療の基礎知識			講義	
	3. 歯の欠損に伴う障害と補綴歯科治療			講義	
	4. 補綴装置の種類とその構造、治療の実際①			講義	
	5. 補綴装置の種類とその構造、治療の実際②			講義	
	6. 補綴装置の種類とその構造、治療の実際③			講義	
	7. 補綴装置の種類とその構造、治療の実際④			講義	
	8. 補綴装置の種類とその構造、治療の実際⑤			講義	
	9. 補綴歯科治療に用いられる器材			講義	
1 0. 補綴歯科治療における歯科技工			講義		
成績評価の方法 筆記試験			テキスト・教材・参考書 歯科衛生学シリーズ「歯科補綴学」 (医歯薬出版)		
担当教員の実務経験の有無			有 ・ 無		
実務経験の内容 歯科診療所での臨床経験等実務経験					

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士		学科	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 口腔外科・歯科麻酔学			講師名 八木 正篤 阿部 亮輔 阿部 亜希 佐藤 潤		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		教育方法	
2 年次・前期		3 0 時間／ 2 単位／ 1 5 回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)		口腔・顎顔面領域の疾患の特徴と診断及び治療法の概念を理解するとともに、歯科治療における全身管理・精神鎮静法・局所麻酔及び全身麻酔の基本の講義			
目標		1. 口腔外科で扱う疾患について理解する。 2. 口腔外科的疾患の診断および診療法について理解する。 3. 口腔外科的疾患と全身の関連性について理解する。			
授業内容		教育内容		教育方法・留意点	
		1. 口腔外科の概要 2. 顎・口腔領域の先天異常と発育異常 3. 顎・口腔領域の損傷および機能障害 4. 口腔粘膜の病変 5. 顎・口腔領域の化膿性炎症疾患 6. 顎・口腔領域の嚢胞性疾患 7. 顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患 8. 唾液性疾患 神経疾患 9. 口腔外科診療の実際（1） 1 0. 口腔外科診療の実際（2） 1 1. 口腔外科診療の実際（3） 1 2. 口腔外科診療の実際（4） 1 3. 歯科治療と歯科麻酔（1） 1 4. 歯科治療と歯科麻酔（2） 1 5. 歯科治療と歯科麻酔（3）		講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 演習	
成績評価の方法 筆記試験			テキスト・教材・参考書 歯科衛生学シリーズ「口腔外科・歯科麻酔」 (医歯薬出版)		
担当教員の実務経験の有無			有 ・ 無		
実務経験の内容					

シラバス

【令和 7 年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士学科		学科	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 小児歯科学			講師名 佐々木 保		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		教育方法	
2 年次・前期		2 0 時間／ 1 単位／ 1 0 回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	小児の成長・発育による身体的・精神的発達変化並びに小児特有の疾患を学習することにより、成人診療との違いを理解する。				
目標	1. 対象疾患の保護者・本人への適切な保健及び疾患への予防指導が出来るようになる。 2. 対象患者への適切な診療補助・患者本人への接遇が出来るようになる。 3. 医療環境への適切な配慮が出来るようになる。				
授業内容	教育内容			教育方法・留意点	
	1. 小児歯科の基礎知識① 2. 小児歯科の基礎知識② 歯の発育とその異常① 3. 歯の発育とその異常② 歯列・咬合の発育とその異常① 4. 歯列・咬合の発育とその異常② 小児の歯科疾患① 5. 小児の歯科疾患② 小児歯科診療① 6. 小児歯科診療② 7. 小児歯科における診療体系① 8. 小児歯科における診療体系② 9. 障害児の歯科治療 1 0. 小児歯科診療における歯科衛生士の役割			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 ※歯科衛生学シリーズの 小児歯科学テキストを中心 として 10 回の講義で進める (20 時間)	
成績評価の方法 筆記試験			テキスト・教材・参考書 歯科衛生学シリーズ「小児歯科学」 (医歯薬出版)		
担当教員の実務経験の有無			有 ・ 無		
実務経験の内容 歯科診療所での臨床経験等実務経験者					

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士		学科	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 歯科矯正学			講師名 古町 瑞郎		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		教育方法	
2 年次・前期		2 0 時間／ 1 単位／ 1 0 回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	歯科矯正に関する基本的な知識を理解し、矯正歯科治療の臨床における歯科衛生士が果たす役割を学ぶ。				
目標	1. 顔面および歯・歯列の成長発育とその評価を理解する。 2. 不正咬合の種類と分類、原因を理解する。 3. 各種矯正装置の種類と基本構造、適応症、作用機序を理解する。				
授業内容	教育内容			教育方法・留意点	
	1. 歯科矯正学概論 成長発育			講義	
	2. 正常咬合と不正咬合			講義	
	3. 矯正歯科診断			講義	
	4. 矯正歯科治療と「力」			講義	
	5. 矯正装置			講義	
	6. 上下顎の前後的・垂直的関係の不調和 成人矯正			講義	
	7. 口腔顎顔面の形成異常と変形			講義	
	歯の埋伏と歯数の異常				
	8. 矯正歯科診断に関わる業務			講義	
矯正歯科診療時の業務①					
9. 矯正歯科診療時の業務②			講義		
矯正歯科患者と口腔保健管理					
1 0. 正歯科治療時のトラブルへの対応			講義		
口腔筋機能療法					
成績評価の方法 筆記試験			テキスト・教材・参考書 歯科衛生学シリーズ「歯科矯正学」(医歯薬出版)		
担当教員の実務経験の有無			有 ・ 無		
実務経験の内容 大学病院、歯科診療所での臨床経験等実務経験有					

シラバス

【令和 7 年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士		学科	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 歯科放射線学			講師名 鈴木 美智恵		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		教育方法	
2 年次・前期		2 0 時間／ 1 単位／ 1 0 回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	歯科疾患の診断及び歯科衛生士の業務範囲にて行える画像検査の意義と関連を理解する。またエックス線写真の補助のために必要な撮影手順、放射線防護の方法を習得する。				
目標	1. 放射線の種類、生体への影響、防護等の基礎知識を習得する。 2. 歯科における X 線検査の役割を理解し撮影に必要な補助及び防護を習得する。 3. 画像診断の種類・方法を理解する。また放射線治療と口腔管理を習得する。				
授業内容	教育内容			教育方法・留意点	
	1. 歯科医療と放射線 2. エックス線の発生、性質とその量 放射線の人体への影響とその防護 3. 口内法エックス線撮影装置、撮影に用いる検出器 4. 口内法エックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割① 5. 口内法エックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割② 6. パノラマエックス線撮影装置における画像形成 7. パノラマエックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割 8. 歯科用コーンビーム CT 及びその他の画像検査法 9. 歯科エックス線画像の観察 1 0. がんの放射線治療と口腔健康管理			講義 講義 講義 講義 講義、実習① 講義 講義、実習② 講義 講義、実習①② 講義	
成績評価の方法 筆記試験			テキスト・教材・参考書 歯科衛生学シリーズ 「歯科放射線学 第 2 版」 (医歯薬出版)		
担当教員の実務経験の有無			有 ・ 無		
実務経験の内容 病院、歯科診療所での臨床実習実務経験有					

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士 学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 う蝕予防処置Ⅰ		講師名 浪岡 多津子		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	教育方法	
1 年次・後期		3 0 時間／1 単位／1 5 回	講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	う蝕予防処置法（フッ化物歯面塗布法、フッ化物洗口法）やその他関連項目（う蝕活動性試験）の目的、方法、実施上の注意事項等の知識や実践を学ぶ。			
目標	1. う蝕予防処置の応用について説明できる。 2. う蝕活動性試験を説明できる。 3. フッ化物応用法について説明および実践できる。			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	1. う蝕予防処置法とは、う蝕の基礎知識 2～4. う蝕に関する検査①～③ 5～7. フッ化物の応用①～③ 8～9. フッ化物歯面塗布法①② 10. フッ化物の応用④ 11～12. フッ化物洗口法①② 13. フッ化物歯面塗布法③ 14～15. フッ化物歯面塗布法④⑤		講義 講義、実技 講義、演習 演習 講義、演習 講義、演習 演習 実習	
成績評価の方法 筆記試験、授業態度、提出物		テキスト・教材・参考書 歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」（医歯薬出版）		
担当教員の実務経験の有無		有 ・ 無		
実務経験の内容 病院歯科や歯科診療所において歯科衛生士の実務経験あり				

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士		学科	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 う蝕予防処置Ⅱ			講師名 浪岡 多津子		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		教育方法	
2 年次・前期		1 5 時間／ 1 単位／ 7.5 回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	う蝕予防処置法の目的、方法、所要条件、実施上の注意事項等の知識および実践を学ぶ。				
目標	1. フッ化物配合歯磨剤の配合フッ化物の特徴を理解し、使用法を説明できる。 2. 小窩裂溝充填材の種類と特徴を説明できる。 3. フッ化物歯面塗布法を安全に配慮して実践できる。				
授業内容	教育内容			教育方法・留意点	
	1. フッ化物配合歯磨剤① 2. フッ化物配合歯磨剤② 3. フッ化物歯面塗布（トレイ法） 4. ライフステージ別のフッ化物局所応用 5. フッ化ジアンミン銀の応用、イオン導入法 6. 小窩裂溝充填法① 7～8. 小窩裂溝充填法②			講義、演習 講義 実習 講義 講義、演習 講義 演習	
成績評価の方法 筆記試験、授業態度			テキスト・教材・参考書 歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 (医歯薬出版)		
担当教員の実務経験の有無			(有) ・ 無		
実務経験の内容 病院歯科において歯科衛生士の実務経験あり					

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士 学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 う蝕予防処置Ⅲ		講師名 浪岡 多津子		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	教育方法	
3 年次・通年		1 5 時間／ 1 単位／ 7. 5 回	講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	う蝕予防処置法（フッ化物歯面塗布法、小窩裂溝填塞法）の目的、方法、所要条件、実施上の注意事項等の知識および実践を学ぶ。			
目標	1. 小窩裂溝填塞法を実施できる。 2. 歯面清掃を安全に配慮して実施できる。 3. フッ化物歯面塗布法を安全に配慮して実施できる。			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	1. う蝕予防処置集団応用の考え方 2～3. フッ化物歯面塗布法実習①② 4～5. 小窩裂溝填塞法実習①② 6. う蝕予防処置法の有効性と活用 7～8. フッ化物の応用 まとめ		講義 実習 実習 講義 講義	
成績評価の方法 筆記試験、授業態度		テキスト・教材・参考書 歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」（医歯薬出版）		
担当教員の実務経験の有無		有 ・ 無		
実務経験の内容 病院歯科や歯科診療所において歯科衛生士の実務経験あり				

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士 学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 歯周病予防処置Ⅰ		講師名 津志田 奈保美		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	教育方法	
1 年次・前期		9 0 時間／ 3 単位 / 4 5 回	講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	歯周疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持増進するために必要な専門的知識、技術および態度を習得する。			
目標	1. 歯科衛生法における歯科予防処置法について説明できる 2. 歯周疾患の発症・進行・治療・予防について説明できる 3. 歯周組織検査、予防的歯石除去、歯面研磨に必要な器具の取り扱いと基本的な操作を行うことができる			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	1. 歯科予防処置総論 2～4. 口腔の基礎知識、歯周病の基礎知識 5. 歯科衛生介入としての歯科予防処置 6. 基本姿勢、器具の基本操作① 7. 器具の基本操作② 8・9. 手用スケーラー基本操作 10～17. シックルスケーラー基本操作 18～20. キュレットスケーラー基本操作 21～32. キュレットスケーラー部位別操作 33～37. 歯周組織検査、歯面研磨 38・39. パワースケーラー基礎知識 40・41. パワースケーラー基本操作 41～43. 歯面研磨 44・45. まとめ		講義 講義 講義、演習 講義、演習 講義、演習 講義、演習 講義、演習、実習 講義、演習 実習 講義、演習 講義 講義、演習 実習 講義、演習、実習	
成績評価の方法 筆記試験、出席、授業態度		テキスト・教材・参考書 歯科衛生士学シリーズ 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版)		
担当教員の実務経験の有無		有 ・ 無		
実務経験の内容				

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士 学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 歯周病予防処置Ⅱ		講師名 津志田 奈保美		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	教育方法	
2 年次・通年		6 0 時間／ 2 単位／ 3 0 時間	講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	歯周疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持増進するために必要な専門的知識、技術および態度を習得する。			
目標	1. 歯周疾患治療および予防管理における歯科衛生士の役割について述べることができる。 2. 歯肉縁下のプラークコントロールの意義を説明できる。 3. 歯周組織検査、予防的歯石除去、歯面研磨において、適切な器具を使用し、正しい操作ができる。			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	1～6. 歯面研磨 7～11. 歯面清掃 12～14. シャープニング 14～21. 歯周組織検査 22. 歯周疾患の指標 23～30. 超音波スケーラー（パワースケーラー）		講義、演習、実習 講義、演習、実習 講義、演習、実習 講義、演習、実習 講義、演習 講義、演習、実習	
成績評価の方法 筆記試験、出席、授業態度		テキスト・教材・参考書 歯科衛生士学シリーズ 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版)		
担当教員の実務経験の有無		有 ・ 無		
実務経験の内容 歯科医療機関において歯科衛生士の実務経験有				

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士 学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 歯周病予防処置Ⅲ		講師名 津志田 奈保美		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		教育方法	
3年次・通年	60時間／ 2単位 ／ 30回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	歯周疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持増進するために必要な専門的知識、技術および態度を習得する。			
目標	1. 歯科衛生介入のための歯周病予防処置法を行うことができる 2. 歯周病患者の症例について、発症に関わった因子を考察できる 3. 歯周病の予防、メンテナンス、SPTを説明できる			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	1～8. 歯科衛生介入の歯科予防処置 歯周組織検査、歯石除去、歯面研磨、歯面清掃 9～10. 歯周病に関する検査、指標 11～20. 歯周基本治療、SRP、PMTC 21～22. 歯牙形態・歯肉の観察 23～26 メインテナンスと SPT 27～30. まとめ総合実習		講義、演習、実習 講義、演習、実習 講義、演習 講義、演習 講義、演習 演習、実習	
成績評価の方法 筆記試験、出席、授業態度		テキスト・教材・参考書 歯科衛生士学シリーズ 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版)		
担当教員の実務経験の有無 (有) ・ 無				
実務経験の内容 歯科医療機関において歯科衛生士の実務経験有				

シラバス

【令和 7 年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士		学科	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 歯科保健指導Ⅰ			講師名 奈良真侑子 小原志保		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		教育方法	
1 年次・通年		90 時間／3 単位／45 回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を習得する				
目標	1. 健康の定義、行動変容、口腔清掃や歯周疾患の指数を説明できる。 2. 歯ブラシの種類と特徴、各種ブラッシング方法の特徴を説明できる。 3. 食生活指導、喫煙者に対する指導の方法を説明できる。				
授業内容	教育内容			教育方法・留意点	
	①② 歯科保健指導総論			講義、演習、実習	
	③④ 口腔の基礎知識（１）（２）			講義	
	⑤ 食生活指導のための基礎知識			講義	
	⑥⑦ 栄養素の働き・消化・吸収			講義	
	⑧食品のう蝕誘発能 ⑨ 歯周病と食生活			講義	
	⑩⑪⑫ 分析のためのデータ（１）（２）			講義	
	⑬⑭ 歯科衛生アセスメントとしての情報収集			講義、演習	
	⑮⑯⑰ 口腔の器質的問題の把握（１）（２）（３）			講義	
	⑱ 口腔の機能的問題の把握			講義	
	⑲ 保健行動支援のための基礎知識			講義	
	⑳㉑ 口腔機能管理に関わる指導（１）（２）			講義	
	㉒ストレスマネジメント			講義	
	㉓㉔喫煙者に対する指導（１）（２）			講義	
	㉕㉖㉗口腔衛生管理に関わる指導（１）（２）			講義	
	㉘㉙口腔清掃法			講義	
	㉚～㉛ 口腔清掃法（１）～（10）			講義、演習、実習	
㉜～㉝ 地域歯科保健活動における健康教育			講義、実習		
成績評価の方法 筆記試験・授業態度・提出物			テキスト・教材・参考書 歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」（医歯薬出版）		
担当教員の実務経験の有無			有 ・ 無		
実務経験の内容 歯科医療機関において歯科衛生士の実務経験あり					

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士		学科	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 歯科保健指導Ⅱ			講師名 奈良 真侑子		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		教育方法	
2年次・通年		60時間／2単位／30回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	ライフステージに応じた個々の対象に合った実践的な歯科保健指導ができるようになるための基礎知識・技術を習得する。				
目標	1. 口腔保健管理法をライフステージ別に身につける事ができる。 2. 対象者の把握・計画立案・実施・評価することができる。 3. 多様な生活習慣・健康状態にある個人、集団に対し専門的立場から支援できる。				
授業内容	教育内容			教育方法・留意点	
	①～③ ライフステージに対応した歯科衛生介入 ④～⑧ 幼児に対する歯科保健指導 ⑨ 歯科衛生過程 概念 ⑩ 歯科衛生理論 歯科衛生ニーズ理論 ⑪ 歯科衛生アセスメント（情報の分類・整理） ⑫ 歯科衛生アセスメント（情報の解釈・分析） ⑬ 歯科衛生診断 情報の統合 ⑭ 歯科衛生診断文の作成 ⑮ 歯科衛生介入 ⑯ 歯科衛生評価 ⑰⑱ 地域歯科保健活動のフィールド ⑲⑳ ライフステージに対応した歯科衛生介入 ㉑ 配慮を要する者への歯科衛生介入① ㉒～㉔ 配慮を要する高齢者に対する歯科保健指導 ㉕ 配慮を要する者への歯科衛生介入② ㉖～㉘ 配慮を要する障がい者に対する歯科保健指導 ㉙～㉚ まとめ			講義 講義 講義 講義 講義・演習 講義・演習 講義・演習 講義・演習 講義・演習 講義 講義・演習・実技 講義・演習・実技 講義・演習・実技 講義	
成績評価の方法 筆記試験・授業態度・提出物			テキスト・教材・参考書 歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」（医歯薬出版）		
担当教員の実務経験の有無			有・無		
実務経験の内容 歯科医療機関において歯科衛生士の実務経験あり					

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士 学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 歯科保健指導Ⅲ		講師名 奈良真侑子		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	教育方法	
3年次・通年		60時間／2単位／30回	講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	これまでに学んだ歯科保健指導に関する内容を基礎として、対象別、症例別歯科保健指導の実際について示し、生涯を通じた口腔保健管理ができる指導能力を習得する。			
目標	1. 地域歯科保健における健康教育や保健指導の概要を説明できる。 2. 集団の指導に適した指導目標・指導案・指導原稿・教育媒体を作成し教育現場で実践の方法を学ぶ。 3. 口腔機能の維持・向上のためのアセスメントおよび口腔機能訓練法を学ぶ。			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	① 歯科衛生過程 概念 ② 歯科衛生理論 歯科衛生ニーズ理論 ③④ 歯科衛生アセスメント（情報の分類・整理） ⑤⑥ 歯科衛生アセスメント（情報の解釈・分析） ⑦ 歯科衛生診断 情報の統合 ⑧ 歯科衛生診断文の作成 ⑨ 歯科衛生介入 ⑩～⑭ 歯科衛生過程演習 ⑮ 歯科衛生評価 ⑯ 歯科衛生過程まとめ ⑰⑱ 歯科保健指導論について応用力をつける ⑲⑳ 大規模災害被害者 ㉑～③⑩歯科保健指導まとめ		講義 講義 講義・演習 講義・演習 講義・演習 講義・演習 講義・演習 講義・演習 講義・演習 講義・演習 講義 講義	
成績評価の方法 筆記試験・授業態度・提出物		テキスト・教材・参考書 歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」（医歯薬出版）		
担当教員の実務経験の有無		有 ・ 無		
実務経験の内容 歯科医療機関において歯科衛生士の実務経験あり				

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士 学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 歯科診療補助Ⅰ		講師名 浪岡 多津子 奈良 真侑子		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	教育方法	
1 年次・通年		9 0 時間／ 3 単位／ 4 5 回	講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	歯科診療を効果的に進めるための共同動作や基本的な診療補助の技術を習得し、各歯科材料や機器の基礎知識を認識し、取り扱い方法や留意点を理解する。			
目標	1. 歯科診療の補助における歯科衛生士の役割を説明できる。 2. 医療安全の概念や感染予防対策について説明できる。 3. 器具や歯科材料の取り扱い、受け渡しができる。			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	1 歯科診療補助の概念 2～7 医療安全と感染予防①～⑥ 8～10 診療室の基礎知識①～③ 11.12 歯科診療所における受診の流れ①② 13～16 共同動作①～④ 17 切削用機器 18 歯科材料の基礎知識 19.20 印象材Ⅰ①② 21 模型用材料 22 印象採得・模型作成Ⅰ 23.24 印象材Ⅱ①② 25.26 合着・接着の補助①② 27.28 成形歯冠修復の補助①② 29 仮封・仮着の補助 30～32 印象材Ⅲ①～③ 33 ワックスの基礎知識 34 金属セラミックス 35～38 共同動作⑤～⑧ 39 衛生材料 40 薬品、歯科材料の管理 局所麻酔の基礎知識 41 スタディモデル 42 スタディモデル作製のための印象採得 43 石膏模型作製 44.45 口腔内写真撮影①②		講義 講義、③のみ講義・演習 講義、実習 講義 講義、演習 講義、演習 講義、演習 講義、演習、実習 講義、演習 講義、演習 講義、演習 講義、演習 講義、演習 講義、演習 講義、演習 演習 講義、実習、実技	
成績評価の方法 筆記試験、授業態度、提出物		テキスト・教材・参考書 歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」、 「歯科機器」、「歯科材料」(医歯薬出版)		
担当教員の実務経験の有無		(有) ・ 無		
実務経験の内容 病院歯科や歯科診療所において歯科衛生士の実務経験あり				

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士		学科	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 歯科診療補助Ⅱ			講師名 鈴木 美智恵 浪岡 多津子		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		教育方法	
2年次・通年		90時間／3単位／45回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	歯科診療の各処置内容を理解し、前準備と術式に沿った使用器材の受け渡し、診療中の患者対応、処置後の患者指導および器材の後始末などの知識・技術を、講義や実習を通じて習得する。				
目標	1. 歯科医療における感染予防対策や感染事故時の対応について説明できる。 2. 各処置の手順を理解し、使用する器材の準備と取り扱いができる。 3. 診療時の適切な患者対応を説明できる。				
授業内容	教育内容			教育方法・留意点	
	1～2. 口腔内写真撮影①② 3. 口腔内写真データ管理 4. 隔壁法 歯間分離法 5～8. 保存修復時の診療補助①～④ 9～10. ラバーダム防湿①② 11～12. 歯内療法時の診療補助①② 13～14. 歯周外科治療の診療補助①② 15～19. 口腔外科治療時の診療補助①～⑤ 20～24. 印象採得・模型作成①～⑤ 25～30. 補綴治療時の診療補助Ⅰ①～⑥ 31～32. 補綴治療時の診療補助Ⅱ①② 33～34. 矯正治療時の診療補助①② 35. 小児歯科治療時の診療補助 36. 歯の漂白 37. 手術用器具の取扱い 38. 歯科用門診療における対応 39. レーザー治療 40. 医療安全管理 41. 感染予防対策 42～43. 特別な配慮が必要な患者対応①② 44～45. エックス線写真撮影時の診療補助①②			相互実習 演習 講義、演習 講義、演習 講義、演習 講義、演習 講義、演習 講義、実習、演習 講義、演習 講義、演習 講義、演習 講義、演習 講義 講義、演習 講義、演習 講義 講義、グループワーク 講義 講義、実習 講義、演習	
成績評価の方法 筆記試験、授業態度、提出物			テキスト・教材・参考書 歯科衛生士学シリーズ「歯科診療補助論」 (医歯薬出版) 他		
担当教員の実務経験の有無			有・無		
実務経験の内容					

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士 学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 歯科診療補助Ⅲ		講師名 浪岡多津子		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	教育方法	
3年次・通年		45時間／3単位／22.5回	講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	今まで学んできた歯科診療補助に関する知識・技術の習熟をはかり、医療疾患患者や偶発症への対応ができるよう、応用力を身につける。			
目標	1. プロビジョナルレストレーションの作成手順を説明できる。 2. 保険医療制度、診療報酬の基礎について理解できる。 3. 周術期等口腔機能管理の概要や一次救命処置の手順を説明できる。			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	1. エックス線写真撮影 2. 周術期における歯科診療の補助 3～9. プロビジョナルレストレーション製作①～⑦ 10. 救急処置、歯科麻酔時の診療補助 11. インプラント治療時の診療補助 12～17. 社会保険①～⑤ 18. 歯科技工用機器 19～21. 口腔機能管理 21. 感染予防 22～23. 歯科材料の基礎知識		講義 講義 講義、演習 講義 講義 講義、演習 講義 講義 講義 講義	
成績評価の方法 筆記試験、授業態度、提出物		テキスト・教材・参考書 歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」、 「歯科保険請求マニュアル」（医歯薬出版）他		
担当教員の実務経験の有無		有 ・ 無		
実務経験の内容 病院歯科や歯科診療所において歯科衛生士の実務経験あり				

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士 学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 臨床・臨地実習Ⅰ		講師名 臨床実習指導者（歯科医師、歯科衛生士）		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		教育方法
1 年次・通年		4 5 時間／ 1 単位		講義・実技・実習・演習
授業概要 （目的）	歯科医療の臨床実習場면을早期に体験することで、歯科医療の概要を理解し、歯科医療機関における歯科衛生士の業務、役割を知る。			
目標	1. 歯科医療機関の概要を理解できる 2. 歯科医療機関に携わる食所とその業務を説明できる 3. 歯科診療の場面をとおして、歯科衛生士の業務、役割を知る			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	1. 歯科診療所、病院実習 歯科診療及び歯科衛生業務の見学、補助 診療室の清潔域、不潔域への適切な対応 患者誘導、ライティング、バキューム操作 実習内容の記録		実習、実技	
成績評価の方法 各実習の評価基準に沿い、出席状況、実習態度、実習実技および知識・実習記録を総合的に評価		テキスト・教材・参考書 各実習の実施要領、教科書等		
担当教員の実務経験の有無 有 ・ 無				
実務経験の内容 歯科診療所等、医療施設において実務経験有				

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士		学科	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 臨床・臨床実習Ⅱ			講師名 臨床実習指導者（歯科医師、歯科衛生士）		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		教育方法	
2年次・通年		360時間／8単位		講義・実技・実習・演習	
授業概要 （目的）	歯科医療機関において、講義や校内実習で学んだ知識・技術を臨床での実践と結び付け、歯科衛生士業務を実践する。高齢者に対し適切に口腔機能管理を実施する能力を身につけるため、高齢者施設での歯科衛生士の役割を習得する。				
目標	1. 歯科医療機関の概要説明を受け、理解を深める。 2. 歯科治療の術式および使用器材の用途を理解できる。 3. 歯科医療機関、高齢者施設の中での歯科衛生士の役割を理解できる。				
授業内容	教育内容			教育方法・留意点	
	1. 歯科診療所実習 歯科診療および歯科衛生業務の見学、補助 診療室の清潔域・不潔域への適切な対応 患者誘導、ライティング、バキューム操作 実習内容の記録など			実習、演習	
	2. 障がい者施設実習 口腔衛生指導、媒体作成、実習内容の記録			実習、演習	
	3. 高齢者施設実習 利用者とのコミュニケーション、口腔衛生指導 口腔衛生管理の補助、実習内容の記録 など			実習、演習	
	4. 保育園実習 歯科健康教育の計画立案、教材作成、実践、園児とのコミュニケーション、ブラッシング指導 実習内容の記録 など			実習、演習	
	5. 保健所実習 3歳児の生活や環境を理解する 3歳児の心身状況を理解する コミュニケーションを図る 歯科健診の及び歯科相談の詳細を把握する			実習、演習	
成績評価の方法 各実習の評価基準に沿い、出席状況、実習態度、実習実技および知識・実習記録を総合的に評価			テキスト・教材・参考書 各実習の実施要領、教科書等		
担当教員の実務経験の有無 有 ・ 無					
実務経験の内容 歯科診療所等、医療機関において実務経験有					

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士 学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 臨床・臨地実習Ⅲ		講師名 臨床実習指導者（歯科医師、歯科衛生士）		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	教育方法	
3年次・通年		495時間／11単位	講義・実技・実習・演習	
授業概要 （目的）	実習施設において、歯科衛生士に求められる責任感、誠実性、積極性、協調性、判断力を培い、実践能力を養う。対象者とのコミュニケーションを図り、必要な情報を収集し、各々に応じた歯科衛生業務を実践する。			
目標	1. 歯科治療に必要な器材の準備や、用途に応じて取り扱うことができる。 2. 指導者の指示に従い、対象者の状態に応じた保健指導ができる。 3. 医療安全管理に配慮した行動ができる。			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	1. 歯科診療所、病院実習 歯科診療および歯科衛生業務の見学、補助 診療室の清潔域・不潔域への適切な対応 患者誘導、ライティング、バキューム操作 歯科予防処置、歯科保健指導の実際 実習内容の記録 など		実習、演習	
成績評価の方法 各実習の評価基準に沿い、出席状況、実習態度、実習実技および知識・実習記録を総合的に評価		テキスト・教材・参考書 各実習の実施要領、教科書等		
担当教員の実務経験の有無		有	・	無
実務経験の内容 歯科診療所等、医療機関において実務経験有				

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士 学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 ※選択必修分野 有病者歯科		講師名 八森 寛		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	教育方法	
3 年次・前期		1 5 時間／ 1 単位／ 7. 5 回	講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	診療室内外で求められる全身疾患の知識、全身から口腔をみる、口腔から全身をみる目などについて講義する。			
目標	1. 検査を通じて患者の状態を把握する。 2. 全身疾患が口腔に及ぼす影響を理解する。 3. 全身疾患を理解したうえで歯科衛生業務を行うことができる。			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	全身疾患の基礎知識と口腔との関連、歯科衛生士業務における留意点を説明できる。 1. 生理機能検査、血液学的検査 2. 感染症の検査 3. 肝機能の検査 4. 腎機能の検査 5. 糖尿病の検査、代謝・内分泌疾患の検査 6. 免疫・血清学的検査 7. 病理学的検査、画像検査 8. 口腔領域の臨床検査		講義 教科書と過去問題を照らし合わせながら、重要なポイントを中心に説明する。	
成績評価の方法 筆記試験及び出席率を勘案し評価する。		テキスト・教材・参考書 歯科衛生学シリーズ「臨床検査」(医歯薬出版)		
担当教員の実務経験の有無		有 ・ 無		
実務経験の内容 歯科診療所等において歯科医師の実務経験有				

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士 学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 ※選択必修分野 災害歯科保健		講師名 大黒 英貴 浪岡 多津子		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		教育方法	
3年次・前期	15時間／1単位／7.5回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	大規模災害時の歯科保健活動の実際を学び、歯科保健従事者の一員としての役割を理解する。			
目標	1. 大規模災害時の歯科保健活動の実際について理解できる。 2. 災害時の医療・歯科保健体制を説明できる。 3. 多職種連携における歯科衛生士としての役割を説明できる。			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	1. 被災地での歯科保健活動の実際 2. 災害時の医療・歯科保健体制 3. 災害時の多職種連携 4. 被災地での歯科保健活動 歯科衛生士としての基本姿勢 5. 事例をアセスメントする 6. 被災地見学 被災した歯科医院の状況を知る 7. 被災した歯科医院の当時と現在の状況をレポートにまとめる 8. まとめ		講義 講義 講義 講義 演習 演習 演習 講義	
成績評価の方法 筆記試験およびレポートによる総合評価		テキスト・教材・参考書 「災害歯科医学」(医歯薬出版) 「災害歯科保健活動歯科衛生士実践マニュアル」 (日本歯科衛生士会) 歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学」 (医歯薬出版)		
担当教員の実務経験の有無		有・無		
実務経験の内容 歯科医療機関において歯科医師の実務経験あり 歯科医療機関において歯科衛生士の実務経験あり				

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士		学科	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 ※選択必修分野 高齢者歯科・摂食嚥下指導			講師名 小野寺 政雄 晴山 婦美子		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		教育方法	
2年次・前期		30時間／2単位／15回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	加齢に伴う身体的機能や心理的变化、そして高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患を理解し、高齢者を歯科の分野から直接および間接的に支えることができる方法を身につける。				
目標	1. 加齢に伴う変化および高齢者の全身疾患と口腔疾患の特徴を説明できる。 2. 摂食嚥下の評価とその対応を説明し、行うことができる。 3. 高齢者の口腔健康管理を説明し、行うことができる。 4. 高齢社会の現状を理解し、社会保障と医療・保健・福祉を説明できる。				
授業内容	教育内容			教育方法・留意点	
	1. 高齢者を取り巻く社会と環境 2. 加齢による身体的・精神的変化と疾患① 3. 加齢による身体的・精神的変化と疾患② 4. 加齢による身体的・精神的変化と疾患③ 5. 高齢者の状態の把握 リスクマネジメント 6. オーラルフレイルの概念と歯科衛生士の役割 7. 高齢者に対する口腔健康管理① 8. 高齢者に対する口腔健康管理② 9. リハビリテーション総論/摂食嚥下のメカニズム 10. 摂食嚥下のメカニズム 11. 摂食嚥下障害 12. 嚥下訓練と対応① 13. 嚥下訓練と対応② 14. 摂食嚥下リハビリテーションと口腔健康管理③ 15. 高齢者に関わる医療と介護／多職種連携			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義、演習 講義、演習 講義 講義 講義 講義、演習 講義、演習 講義、演習 講義	
成績評価の方法 筆記試験		テキスト・教材・参考書 歯科衛生学シリーズ「高齢者歯科学」(医歯薬出版)			
担当教員の実務経験の有無		有 ・ 無			
実務経験の内容 小野寺：大学・専門学校での講義、臨床経験等実務経験 有 晴山：リハビリテーション病院勤務 特別養護老人ホーム訪問口腔ケア 専門学校での講義 有					

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士		学科	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 ※選択必修分野 障害者歯科学			講師名 村井 雄司 松田 輝美 阿部 真之		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		教育方法	
2 年次・前期		1 5 時間／ 1 単位／ 7. 5 回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	歯科衛生業務を行うために必要な障害児者の身体的・心理的特徴と歯科治療および歯科衛生士の役割を理解する。				
目標	1. 障害の概念が説明できる。 2. 障害の種類・歯科的を説明できる。 3. 障害児者の歯科的治療を理解できる。				
授業内容	教育内容			教育方法・留意点	
	1. 障害の概念 障害の種類と歯科的特徴① 2. 障害の概念 障害の種類と歯科的特徴② 3. 障害児者の行動調整 リスク評価 4. 障害児者の歯科医療 5. 健康支援と口腔衛生管理 6. 健康支援と口腔衛生管理地域における障害者歯科 7. 摂食嚥下リハビリテーション 8. 摂食嚥下リハビリテーション			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	
成績評価の方法 筆記試験			テキスト・教材・参考書 歯科衛生学シリーズ 「障害者歯科学」 (医歯薬出版)		
担当教員の実務経験の有無			(有) ・ 無		
実務経験の内容 歯科医師、言語聴覚士、公認心理師として臨床経験有					

シラバス

【令和7年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士 学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 ※選択必修分野 研究		講師名 浪岡 多津子		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		教育方法	
3 年次・通年	4 5 時間／ 3 単位／ 2 2 . 5 回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	歯科衛生士業務または歯科衛生に関わる事象について各自の疑問や興味を持つ事柄において、テーマを選択し、計画立案に基づいて研究を実施し、その成果をまとめることにより、科学的思考や問題解決の能力を養う。			
目標	1. 関係する文献を収集し、文献から得られた情報を理解することができる。 2. 研究計画を立案し、研究結果のデータの集計、整理を行うことができる。 3. 研究論文の形式に取り組んだ成果をまとめ、発表することができる。			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	1. 研究とは 2～6. 研究の進め方とまとめ方①～⑤ 7～10. 歯科衛生研究の実際について①～④ 11～21. 文献レビューの作成①～⑪ 22. 口頭発表の準備 23. 研究発表の実践		講義 講義 演習 演習 演習、発表 演習、発表	
成績評価の方法 出席、レポート・発表による総合評価		テキスト・教材・参考書 「日本歯科衛生学会雑誌」(日本歯科衛生学会) 「歯科衛生研究の進め方論文の書き方」 (医歯薬出版)		
担当教員の実務経験の有無		有・無		
実務経験の内容 歯科医療機関において歯科衛生士の実務経験あり				

シラバス

【令和 7 年度】

MCL 盛岡医療大学校

歯科衛生士 学科		基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 ※選択必修分野 接遇講座		講師名 大村 洋子		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	教育方法	
1 年次・通年		1 5 時間／ 1 単位／ 7. 5 回	講義・実技・実習・演習	
授業概要 (目的)	歯科衛生士を目指す学生及び社会人としての常識やマナーに関する基礎的な知識を学習し、身につける。医療人として臨機応変に対応するための心構えや対応の仕方を習得する。			
目標	1. 信頼関係を築くための関わり方を知り、患者様への思いやりを行動やしぐさで表現できる。 2. 治療の内容や流れをわかりやすく説明し、安心して治療を受けていただくことができる。 3. 一企業人として、チーム内でドクターや先輩・同僚といいコミュニケーションを取り活躍できる。			
授業内容	教育内容		教育方法・留意点	
	1. 接遇の目的、信頼関係の大切さ 2. 電話対応の基本、場面を意識した電話対応 3. 敬語の必要性、場面に合った言葉使い 4. 正しい敬語 5. 効果的な話し方の工夫、実践 6. 患者様の気持ちを大事にした言葉遣い 7. 葉書や手紙の書き方の形式 8. 場面に応じた接遇		講義、演習 講義、演習 講義、演習 講義、演習 講義、演習 講義、演習 講義、演習 講義、演習	
成績評価の方法 筆記試験 50％、出席 30％、授業態度 20％		テキスト・教材・参考書 オリジナルの資料を用意		
担当教員の実務経験の有無		(有) ・ 無		
実務経験の内容 他専門学校での指導経験等実務経験有				